

日本医科大学(後期) 英語

2024年 2月28実施

[I]

問 1 [1] fought [2] thinking [3] expresses [4] adopted [5] ensure

問 2 (1) D (2) F (3) C

問 3 記号 : (う)

理由 : Breadcrumbs とは、これから起こる出来事を予期させながらも聴き手が想像し続けられるのに十分な程度の情報しか明かさないう技法である。車に戻って、後部座席に置いてあったマクドナルドの制服を見た瞬間にひらめきを得たという主人公の描写が、次に主人公の起こす行動を予期させるものであるから。

問 4 記号 : (え)

理由 : Hourglass とは、話し手がそれまで温存していた一文を発することで、ここぞという瞬間に聴き手の注意を引きつける技法である。マクドナルドの制服や装備を身につけて今にも住宅のドアをノックしようとしているその瞬間を描写することで、聴き手の注意を一点に集めようとしているものと考えられるから。

問 5 The story is crafted with the help of a “Crystal Ball.” A “Crystal Ball” is a false prediction a storyteller uses to make the audience wonder if the prediction will prove to be true. In this story, the author is summoned by his/her boss and fears getting fired, but that assumption later turns out to be false and functions as a “Crystal Ball”.

問 6 b, d

問 7 b, c, d

問 8 d

問 9 b, c, d

問 10 b, c

問 11 b

問 12 c

問 13 a

< 講評 >

前期と同じく、記述式長文・マーク式長文・適語補充の各スタイルを1つの大問に併合した出題形式が引き続き踏襲された。文章量も前期と同じく、問題用紙4ページ分をフルに使った超長文であり、集中力を絶やさずに読み通せるかが肝となる。Choose ALL 型の内容一致問題が例年に増して4問も出題され、判定にやや時間を要しただろう。

< 解説 >

問 1 [1] : 「彼は、妻がいかに必死に『闘病した』か語った」となる。

[2] : 「物語について『考える』とき」となる。when 節の主語が省略されているので、thinking と ing 形にする。

[3] : 「真実や弱さを『表明する』何か」となる。先行詞が something なので、3単現 s, express なので es が必要。

[4] : 「これらの技法のどれも「用いなかった」かもしれない」となる。現在完了形なので過去分詞とする。

[5] : 「物語が stakes を確実に持つようにするために」となる。

問 2 (1) 「これはとんでもない考えである」に続けて、「今ならそんなことは分かっているが」という文脈。

(2) 老人が20ドルを手に入れたので、妻をガンで亡くしたことを告白したので、「今度は私が凍り付

く番である」という筆者の驚愕の気持ちが続くのが適切。

(3) 筆者がいったん帰宅して、また戻ってきて借りた金額以上のお金を返す、それに加えて相手にとって「必要なものなら何でも」渡す、という文脈。

- 問 3 第 21 段落で述べられた **Breadcrumbs** の定義と、下線部(i)との共通性をまとめる。
- 問 4 第 22 段落で述べられた **Hourglass** の定義と、下線部(ii)との共通性をまとめる。
- 問 5 「上司から解雇を言い渡されると思ったら、実際には昇進の知らせだった」というのは、第 23 段落で述べられた **Crystal Ball** の定義と合致する。
- 問 6 b は第 1 段落第 3 文、d は第 2 段落第 1 文に合致。a, c のような記述は本文中にない。
- 問 7 a は第 3 段落最終文に合致。b については、第 3 段落第 5 文に “I am the richest person I know” とあるものの、次の文に “My mother is living on welfare” 「母は生活保護を受けて暮らしている」とあり、「裕福な家庭の出身」であるとは言えないため誤り。c のような記述は本文中になく、d もまた主人公がついた嘘の中身であるため誤り。したがって、b, c, d が正答となる。
- 問 8 anything but ~ は「決して～でない」という意味の重要表現。それさえ分かれば、マイナスの内容を示している d 以外に正解はない。
- 問 9 b, c, d は第 17 段落の論旨に合致する。a のような記述は本文中にない。
- 問 10 b は第 18 段落第 4・8 文、c は第 18 段落最終文で示唆されている。d のような記述は本文中にないため不適。a については、第 24 段落最終文で “if your story has some potentially boring parts” という例が挙げられており、boring → allow the listener’s mind to wander 「聴き手の思考を散漫とさせる」と連想すればやや迷う選択肢であるが、あくまで第 24 段落最終文で示されているのは “these strategies will help a lot” 「こうした技法が大いに役立つ」場合であり、stakes の有無と直接関連づけた記述ではないと判断した。
- 問 11 は、物語をより聴き手に訴えるかけるものにするための技法の一つである **Backpack** の説明であり、それは「これから起こるであろう出来事への聴き手の anticipation 『期待』を高める」となるのが適切。 は、物語の主人公が無条件に成功してしまうことを聴き手は望んでおらず、成功に至るまでに四苦八苦することを望んでいるという文脈であり、struggle 「苦闘」が適切。
- 問 12 第 18 段落以降では、話し手が聴き手の心をつかみ、聴き手に物語を聞きたい、もっと聞きたいと思わせるための技法が詳述されており、それは端的に言うと、c 「聴き手と語り手が心情的に結びつくことを可能にする」ことであると考えられる。
- 問 13 第 6 段落では、ガソリンスタンドでお金を借りようとして失敗する主人公の姿が描かれている。これは、**Backpack** について述べた第 20 段落第 4 文 “Backpacks are most effective when a plan does not work” という情報に合致する。

[II]

(1)

In Part 1 of the text, the description at the beginning of the story, namely the fact that the author is stuck in New Hampshire with a flat tire and no spare, is the “Elephant.” The audience knows this fact immediately, and it all happens at the very beginning of the story. At this point, it is obvious to the audience that this is an escape story and they will probably wonder how the author will escape from New Hampshire and return home. So this part of the story can be considered the “Elephant.”

(94 words)

(2)

The author’s “five-second moment” is described in the form of his sincere regret. The author attempts to raise money to put gas in his car by deceiving a man, saying that his mother died of cancer and that he is collecting money for McDonald charities. Contrary to his anticipation, the man, whose wife also died of cancer, is willing to give him more money than actually is needed. Through this experience, the author learns how stupid he was and really regrets his evil deeds.

(84 words)

< 講評 >

PART 1 の物語における (1) Elephant, (2) five-second moment に相当するものは何か, PART 2 で読み解いた内容をもとに英文で説明する問題。自由英作文が 2 つのセクションに分かれるという新傾向であった。例年に比べると自由度がなく, 実質的に本文から得られた情報の英文要約のようなことをしなければならない設問となっている。

[III]

問 1	b, c, d	問 2	a, d	問 3	a, e
問 4	(1) d	(2) a	問 5	(1) c	(2) a
問 6	(1) d	(2) e	問 7	(1) e	(2) c
問 8	(1) e	(2) c	問 9	(1) c	(2) d
問 10	(1) d	(2) b	(3) c		

< 講評 >

例年通り, 発音・語彙・文法に関する小問集合が出題された。問 9・問 10 の文法問題は全体に平易であり, これらを解く時間を残しておけたか (あるいは解く順番を考えられたか) が合否を分かつ鍵となるかもしれない。

< 解説 >

問 9 (1) research は of 句の中に存在することからここでは名詞。したがって, それ以降にある

A, B, and C の並列はすべて名詞でなければならないが, explore は動詞であるため不適。名詞形 exploration を用いる。(a)の As big as は, 分詞構文 Being as big as から being が省略された形。

(2) which the world is needed では, 関係代名詞 which の後ろに完全文が続いていることになってしまう。能動態 the world needs とすれば, which が目的格の関係代名詞として機能する。

問 10 (1) set out toV 「～し始める」という表現を問うている。

(2) The memory loss (associated with ... dementia) まだが主語であり, 全体を文として成立させるためには空所に動詞成分が必要。

(3) it's almost ... iron ore までは一つの完全文。空所前後には文を接続する要素が存在しないため, a と b は不適。d も文法的に不成立な受動態となっている。

【総評】

大問構成・出題形式ともに前期と同一。Choose ALL 型の内容一致問題が 4 問も出題されたことに加え, 英作文が自由度の低い英文要約のような設問となり, 直近数年間では難しめの部類と言えるだろう。一次通過ラインは, 他科目との兼ね合いもあるが 60%程度か。

医大別直前二次試験対策講座(後期)

- 金沢医科大学 (般後)
- 埼玉医科大学 (般後・共)
- 日本医科大学 (般後)
- 昭和大学 (般Ⅱ期)
- 聖マリアンナ医科大学 (般後)
- 日本大学 (N方式2期)
- 藤田医科大学 (般後・共後)

合格を勝ち取る！
各大学の二次試験の要点解説と面接対策

◆スケジュールについてはHPでご確認ください。



本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校
YMS
heart of medicine

☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部進学予備校



☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校



☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

